

台東育英

台東区立台東育英小学校

VOL. 21

No. 5

校長 瀬下 清

<http://www.taitocity.net/taidoukuei-s/>

台東育英小学校の2学期が始まりました

校長 瀬下 清

夏休みが終わり、元気な子供たちの声が学校に戻ってきました。

この期間におきましても、保護者や地域の皆様には、様々なご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。今学期より、校舎改築のため旧柳北小学校校舎での学校生活が始まりました。慣れるまで少し時間がかかるかもしれませんが、新たな気持ちで2学期を元気よくスタートしていきたいと思います。

この夏も昨年引き続き、PTAや地域の様々な行事が中止となってしまいました。本校の子供たちにとって、地域の行事は、母校愛や地域愛を育成するとともに、温かい人と人との絆を深めることのできるコミュニケーションの場であります。とても残念でしたが、来年こそはと願っております。

さて、東京オリンピックでは、トップアスリートたちの白熱した数々のプレーにテレビの前にくぎ付けになったのではないのでしょうか。世界がコロナ禍と戦う中であって、この5年間をアスリート一人一人が限界に挑戦し、日々の苦闘を勝ち越えて立つ姿は、私たちの心に勇気と希望を送ってくれました。さらに、心を打たれたのは、プレーだけではありません。勝っても負けても試合を終えてアスリートが発する感謝の言葉でした。それは、コーチや監督、家族や仲間、これまで接してきた人々、そして、オリンピック開催を陰で支えてくれた全ての方々への感謝の言葉でした。自分一人では、この場には立つことはできなかったと強く感じるからこそ、私たちの心にも感謝の心が伝わってきたのだと思います。この感動を送ってくれた全オリンピックに感謝したい気持ちでいっぱいです。今度は、パラリンピックで勇気と希望を感じたいと思います。

改めて、感謝のできる心をもつことの大切さを教えてもらえました。大人でも子供でも、感謝の心をもてる人は、次への挑戦へ向かう力が湧いて、とてもすがすがしいです。そして、周囲の人たちのやる気を鼓舞し、雰囲気明るく前向きにしてくれます。知らず知らずに周りの人たちからも大切にされる人になります。反対に、感謝の心をもてず、愚痴っぽい人は、自分では気が付かないうちに、自分の心を暗く重くしていきます。周りの人のやる気も失わせてしまいます。楽しさや喜びがなくなり、常に文句ばかりの生活になってしまいます。だんだんと友達も離れていきます。

これから始まる2学期は、台東育英小学校創立20周年を寿ぐ、たくさん学校行事が予定されています。まずは、「台東育英小学校校舎の思い出プロジェクト～ありがとう 台東育英小学校校舎～」からスタートします。一つ一つの行事に込められた願いや思いを子供たちに伝え確認をしながら、取り組んでいきたいと思います。台東育英小学校が、保護者・地域の皆様にも強く支えられ、応援をいただいていることへの感謝とともに、全校児童で励まし合える仲間がいることへの喜びを感じることで子供たちに育てていきたいと思います。

今学期も様々にご協力とご理解を頂戴できますよう何卒よろしくお願いをいたします。

気持ちも新たに～引っ越し後の生活～

生活指導 伊藤 幸恵

まずは、保護者の皆様には夏休み中に、旧柳北小学校までの通学路のお子さんとの確認をしていただき、ありがとうございました。なるべく人目があり、安全な道を、落ち着いて登校してほしいと思います。また、地域の皆様にも、通学路が変更になるということで、ご協力をいただいています。子供たちが安心して、登下校できるように多くの皆様が、心に掛けてくださっていることに感謝申し上げます。

さて、仮校舎での生活が始まります。教職員一同、また、区の職員と協力して、2学期からの子供たちの生活が、安全で楽しいものにできるよう、相談や下見を重ね、準備してきました。ワークスペースがない校舎は、少し狭く感じますが、新しい教室で、気持ちも新たに、活動してほしいと思います。

自分の教室や、専科の教室、保健室、トイレの場所を、迷子にならないように覚えることから始まると思います。また、遊び場や、校内の約束もきちんと理解して楽しく過ごせるようにしたいと思います。

給食の配膳の仕方、エレベーターがないため、給食主事さん方には1階にある給食室から、3階の教室まで運び上げていただきます。下膳については、空の食缶などは子供たちで運びおろすこととなります。1、2年生は、5、6年生が助けてくれる予定です。安全に下膳できるように、階段の使い方など、細かい約束もしっかりと理解してほしいと思います。

コロナ禍で様々な制約もありますが、できることを前向きに受け止めて、引っ越し後の生活を充実させていきたいと思います。

今年度の校内研究について

研究主任 町田 広美

本校では5年間、校内研究として国語科の研究を進めています。

今年度も、子供たちが進級してすぐに、「国語についてのアンケート」を行いました。その結果、

『国語の勉強は大切だと思いますか』という質問に、ほとんどの児童が「とても思う・どちらかというと思う」と答えており、国語に対する子供たちの意識が高いことが分かりました。半面、『国語の授業で説明文を読むことは好きですか』『説明文を書くこと(自分の考えをまとめること)は好きですか』という質問には、学年が上がるにつれて「どちらかという好きではない・好きではない」と答える児童が増えていくことが分かりました。教科書の文章が難しくなればなるほど、説明文を苦手と感じてしまうようです。

そこで、今年度は、国語の中でも説明文に焦点を絞り、校内研究を進めていくこととなりました。新学習指導要領の改訂により、「主体的・対話的で、深い学び」が求められる中、説明文を「どのように学ばせ」、それによって「どのような力を付けていくのか」、全教員で深く考え、研究・実践していきたいと思います。